

特集

いま、『協同』が創る 2012 全国集会 in 東北と 地域版協同集会

ワーカーズコープと協同総研が呼びかけて全国各地で開催されてきた「協同集会」は、協同をベースにした活動に取り組む実践者や研究者が交流することなどを目的に、1987年に初めて行われた全国協同集会（静岡県伊東市）が源流である。ワーカーズコープは主催者ではなく呼びかけ人となり、協同組合陣営や労働組合団体、NPO、市民活動団体、障がい者団体、学生、大学や研究機関の研究者などと共に実行委員会を立ち上げながら、各地で集会が行われてきた。

2年に1度のペースで開催されてきた「全国協同集会」では、各地の全国協同集会の実行委員会が集会終了後もネットワークを維持し、毎年「協同集会」を実施するケースもあり、このほか、近年では地域のワーカーズコープが呼びかけ人になって行うローカルな「協同集会」も増えてきた。業種や利害関係にとらわれず、様々な団体や個人が垣根を超えてネットワークを築き、協同してまちづくりに取り組む社会連帯の広がりが各地でみられる。

今年2012年は、国際協同組合同年（IYC）と東日本大震災後の初めての全国協同集会を開催するという意味合いを含め、全国規模の協同集会を東北（盛岡市）と首都圏（さいたま市）の2カ所で開くことになった。また、地域版協同集会も各地で開催された。そこで今号および次号の発見誌ではこれら協同集会を特集し、様々な地域や分野の取組みや実践の奮闘を皆さまと共有したく思う。

今回の協同集会では、いままでの多種多様な地域課題のほかに、原発問題や再生エネルギー、震災からの復興と、新たな課題が加わり私たちの目の前に横たわる。人々が分断され孤立に追いこまれがちなこの社会において、草の根的に立ち上がる協同のネットワークの力、連帯の力から生まれてくる勇気をこの集会から感じてもらえればと考える。（編集部）

「いま、『協同』が創る2012全国集会 in 東北」開催趣旨

目を閉じ、あなたのことを思う。東日本大震災から一年半。いくつもの季節は移ろうが、悲しみが癒えることはない。

福島原発事故は、経済成長を追い求める市場原理の巨大なシステムが、決して私たちに幸福にしないことを示した。人間にとって本当の豊かさ、大切なことは何か、真の復興とは何なのかを考えなくてはならない。

震災前の私たちの社会は失業と貧困、人口の流出と過疎化、無縁社会の広がりに喘いでいた。東北の復興は、こうした震災前の社会に戻すことではない。最も破壊され、喪失と悲しみの中におかれた被災地だからこそ見えてくる真実があり、この社会を変える力がうまれている。

生かされた命。深くて大きな託された何ものかのための、辛くとも目を開け、自らの足で立ち、次世代に希望をつなぐ尊厳ある仕事と、暮らしと、地域を自らの手で創ろうと立ちあがる人々がいる。手を伸ばせば触れられるところに、自然の恵みと人の絆の豊かさを感じられる「小さな共生社会」を築く。そんな新しい社会創造への胎動がきこえる。

東北に新しい日本を。こうした無数の営みをあますところなく交流し、学び合い、市民の協同と連帯の力で本当の復興の道筋をつける全国協同集会 in 東北へ

（「いま、『協同』が創る2012全国集会 in 東北」実行委員会）